

1. 水道創設期（昭和3年度） 元本郷町浄水場

明治30年4月に市街地の大半を焼き尽くす大火災（八王子大火）に見舞われ、その後も大小の火災が発生した。また、他の都市に比べて伝染病が多くみられたことから、早くから水道の必要性が提唱されていた。

しかし、飲料水は井戸を簡単に掘ることができたので十分確保でき、水道は火災時の消火栓としての役割が重要視されていた。

明治40年に一度水道敷設の設計を完了したが、膨大な費用がかかり、時期尚早とされ実現できず、明治44年にも水道調査費を予算計上したが、良い結果が得られなかった。

大正6年9月1日、八王子町は関東で8番目に市制を施行した。町制時代より人口が増加し、公衆衛生上だけでなく、当時の市の基幹産業である織物工場やそれ以外の工場建設のためにも、水道施設の必要性が出てきた。

大正12年9月の関東大震災で、市街地は重大な被災をし、これを契機に水道敷設の機運が高まってきた。しかし、なかなか水源が決まらず、また財政状況から延期の意見も市議会が出たりして、ようやく大正14年2月21日に八王子市議会で「上水道敷設の件」が可決された。

この内容は、市内元本郷町の多賀神社北側に南北浅川の合流地点を水源とした浄水場を建設、横山村散田平塚山に配水池を設け、自然流下で各家庭に給水するものであり予算総額1,250,000円で大正14年から16年まで3カ年の継続事業であった。大正15年の一般会計及び特別会計予算総額は442,641円であったことから、膨大な予算だったことがうかがえる。この歳入は全額起債であった。



元本郷町浄水場（1970年頃撮影）

水道事業を担う組織として臨時水道部を設置。大正 15 年 11 月 20 日に上水道工事の起工式を元本郷町水源地で行い、総工費 963,281 円の工事がスタート。昭和 3 年 9 月 1 日より給水を開始した。

当時の規模は計画給水人口 6 万人、1 人 1 日給水量 112 リットル、1 日最大配水量 6,700 m³であった。

給水後の利用者は当初計画を下回り、使用料収入による市財政の強化どころか市債の償還にも不足する事態になり、上水道事業は、不況により悪化する市財政のお荷物になった。

このため、昭和 5 年、市の境界 500 メートル以内の範囲で隣接各村に給水区域の拡大を図るとともに、水道未使用者に水道特別税を課税しようと試みたり(大蔵省に再検討を申し渡され実施できなかった。)、使用者優遇策をとったりしたが、八王子の水道普及率は伸び悩んだ。

昭和 4 年 3 月に臨時水道部が廃止され水道課が設置された。

市内の水道料金は、メートル制(計量給水制)と定額制(放任給水制)の二本立てで、総計 4,400 本の契約のうちメートル制は 900 本だけであった。このため、夏の需要の多い時期は、使い放題使われて、1 日の平均使用量が給水計画人口 6 万人分に達しようとしていた。これに対応するため、昭和 8 年 4 月から全てメートル制への切り替えが開始された。これ以降、水道普及率は徐々に上がっていった。

コラム『その頃ってどんな時代?』 その 1

昭和 3 年は第 9 回オリンピックがオランダのアムステルダムで開催された年であり、この大会では三段跳びで織田幹雄、200m 平泳ぎで鶴田義行が金メダル、800m 競走で人見絹枝が銀メダルを獲得した。

多摩では、小宮村に競馬場が完成し、11 月に多摩八王子競馬会は第 1 回多摩八王子競馬を開催した。

八王子では京王電気軌道株式会社(現在の京王電鉄株式会社)が 5 月に新宿～東八王子間の直通運転を開始した。また、多摩瓦斯工業株式会社が設立された。

コラム『その頃ってどんな時代?』 その 2

〈水神様について〉

昭和 3 年 12 月の臨時水道委員会は水源に水神を祭ることを決定した。これにより元本郷浄水場敷地内の西北部(現在の多賀公園隣接地)に水神様が祭られた。当初、毎年 4 月 24 日に盛大な祭りが執り行われたようだが、戦後 GHQ の命令で公共施設の神社取り払いがあり、鳥居、玉垣まで撤去した。その後、昭和 27 年ごろに復元され、その折に質素な例祭を行ったようで、それ以降は 2 回ほど行い、明神、中野浄水場落成祝いをした後には祭りは行っていない。

昭和 58 年市役所元本郷新庁舎に水道部が入り、元本郷の水道庁舎は取り壊され多賀公園となった。この折、水神様も現在の位置に移された。

2. 第 1 期拡張工事 (昭和 25 年度～26 年度) 明神町浄水場

昭和 12 年 10 月 20 日、市役所新庁舎が天神町に完成し 11 月 1 日から事務が開始された。

昭和 13 年夏の渇水期には、伏流水の水位が下がり取水ポンプの連続運転ができなくなり、

ポンプを止め時間断水した。その後も工業用水としての使用量増加や計量器の不備もあり使い放題となり、断水は解消しなかった。また、昭和20年八王子大空襲での配水管破壊により漏水が相当量あって1日数時間の断水は避けられなかった。

終戦後、昭和22年より漏水防止と計量器の普及で断水は少し減ったが、昭和24年度末には給水人口が増えて1日平均給水量が7,900 m³となり、当初の1日最大配水量の6,700 m³をはるかに上回ってしまった。

断水対策と人口増加による給水需要の拡大に対応するため、第1期拡張工事が計画された。明神町浄水場の建設である。

総工費13,992,000円で昭和25年9月に着工し、昭和26年8月に竣工した。口径300mm、深さ121.2mと93.9mの2つの井戸を掘って取水し、沈殿池を経て、ポンプで各家庭に送水した。1日最大配水量は2,500 m³であった。これにより、1日平均給水量が9,200 m³の上水が八王子市民と周辺の住民に供給されることになり、時間断水を解消した。



明神町浄水場（1970年頃撮影）

コラム『その頃ってどんな時代？』 その3

昭和25年6月朝鮮戦争勃発。アメリカのトルーマン大統領は韓国軍援助のため海・空軍に出撃命令した。同年3月八王子市保育園条例が議会で可決された。そして同年5月に初の市立保育園である子安保育園が開園した。

昭和26年2月三多摩初の小学校の完全給食が実施された。当時の給食費は1ヶ月1人100円だった。同年3月26日市役所本町新庁舎(現在のいちようホール敷地)が開設された。

3. 第2期拡張工事（昭和27年度～29年度）

中野町浄水場



中野町浄水場（1970年頃撮影）

昭和16年10月浅川対岸にあった小宮町を合併した。小宮町の水道施設は日野重工業株式会社(現在の日野自動車株式会社)の社宅に市外給水を開始した際の大和田・高倉地区の消火栓及び共用栓による給水だけであった。このため、この地区の保健衛生上と防火施設上から水道敷設が求められた。これは小宮町が合併するときの希望条件のひとつであった。

また、旧市内の人口は増加の一途を

たどり、これに対応し安定給水できる体制整備も求められていた。

以上の必要性により、第2期拡張工事が計画された。市内中野町に浄水場を建設し、隣接する加住村の、ひよどり山頂に配水池を設けるものであった。予算 110,000,000 円を計上した3ヵ年の継続事業であり、昭和 27 年 11 月に着工して昭和 30 年 3 月に竣工した。この中野町浄水場は1日平均配水量が 4,800 m³であり、元本郷町浄水場、明神町浄水場の3施設で市内の安定給水が可能となった。

コラム『その頃ってどんな時代?』 その4

昭和 27 年 5 月 1 日戦後初のメーデーが行われ、皇居前広場で警官隊がデモ隊に発砲したメーデー事件が発生した。

昭和 28 年 2 月 1 日に NHK テレビの本格放送が開始された。

八王子市では、昭和 27 年 7 月初の市営住宅である高倉住宅が完成した。18 戸であった。

昭和 28 年 1 月市議会臨時会が開催され八王子市営自転車競技条例を可決した。翌 2 月に初の市営競輪が京王閣で開催され、益金が 845 万円となった。

昭和 29 年 7 月 1 日新警察法施行により八王子市警察は周辺町村を区域とする国家地方警察・東京都八王子地区警察と合併し、警視庁八王子警察となった。

4 . 第3期拡張工事（昭和 31 年度～33 年度） 配水管延長

昭和 30 年 4 月 1 日、本市は隣接する横山、元八王子、恩方、川口、加住及び由井の6つの村を合併した。合併以前にも各村の一部は水道が敷かれていたが、合併した新市域への給水が課題となった。このため、新市域への配水管の延長工事が計画された。

この工事は総工費 57,900,000 円で、総延長 16,000mの配水管を敷設し、給水区域の拡大を図るものであった。

昭和 31 年 3 月市議会で5ヵ年の継続事業として可決し、同年 9 月 6 日に厚生省の許可があったが、起債の許可が得られず、翌昭和 32 年に本格的な工事に着手した。

関係省庁の指示もあって工期の短縮を図り、合併5地区への配水管敷設工事が昭和 33 年度中に竣工した。この第3期拡張工事により、恩方地区を除く5地区に水道が敷設され、住民の生活環境の改善がなされた。

コラム『その頃ってどんな時代?』 その5

昭和 31 年には、冬季オリンピックで猪谷千春が回転競技で2位となり、初のメダルを獲得した。

また、現都知事石原慎太郎が「太陽の季節」で芥川賞を受賞した。太陽族の出現、慎太郎刈りの流行など一大ブームとなる。

歌謡曲では「若いお巡りさん」「リンゴ村から」「ケ・セラ・セラ」などが流行した。

テレビ番組では「チロリン村とくみの木」「お笑い三人組」などが人気だった。

昭和 33 年は「バス通り裏」「事件記者」「月光仮面」などであった。

昭和 33 年 3 月 29 日八王子市水道事業給水条例が市議会で可決された。

同年 12 月 12 日八王子市水道事業に地方公営企業法を適用する日を定める条例を可決した。昭和 34 年 4 月 1 日から適用になり、水道事業管理者を選任するようになった。

5 . 第 4 期拡張工事 （昭和 34 年度～37 年度）

元本郷町浄水場内さく井・浅川浄水場

合併 5 地区への配水管の布設による給水量の増加と人口増に対応するため、新たな水源の開発が迫られていた。このため、元本郷町浄水場内に新たな深井戸(口径 350mm・深さ 150m)を 2 本掘り、ポンプ室を新設することとなった。これにより、1 日配水量 5,000 m³が確保できるようになった。

この工事は総工費 46,483,000 円で昭和 34 年 9 月に着工し、昭和 35 年度末に竣工した。

昭和 34 年 4 月 1 日、本市は浅川町を合併。水道施設の無いこの地区に新たに水道施設を設けることとした。



浅川浄水場（1970 年頃撮影）

この工事は、長房町 506 番地に深井戸(口径 300mm・深さ 100m)を 2 本掘って水源とする浅川浄水場を建設し、初沢町の高台に配水池を設けるもので、総工事費 49,950,000 円で昭和 35 年 3 月に着工し、昭和 37 年 3 月竣工した。これにより、1 日配水量 1,260 m³、7,000 人を対象として給水されることになった。

なお、昭和 34 年 4 月 1 日に今までの水道課から水道部になり、水道事業管理者を選任するようになった。

コラム『その頃ってどんな時代？』 その 6

昭和 34 年には、「少年サンデー」「少年マガジン」が少年向けの漫画週刊誌として創刊された。

歌では「南国土佐を後にして」「黄色いさくらんぼ」「黒い花びら」などが流行した。

テレビ番組では「スター千一夜」「ローハイド」「番頭さんと丁稚どん」などが人気だった。

昭和 35 年 5 月 20 日未明、国会で野党欠席のまま、新安保条約・協定を強行採決した。このため、国会は空白状態になり、連日国会周辺で反対デモが行われ、15 日に全学連の国会デモに警官隊が衝突し、東大生・樺美智子さんが亡くなった。昭和 37 年 10 月 1 日八王子市民会館・八王子市公民館が開館した。

6 . 第 5 期拡張工事 （昭和 36 年度～43 年度） 高月浄水場

昭和 35 年 12 月に水道部を水道局に改編し、水道局事務所を大和田にあった旧小宮町役場(現在の大和田市民センターの場所)に移転した。

昭和 36 年に人口増加に対応する第 5 期拡張工事を計画した。これは、昭和 50 年度に給水人口 20 万人として見込み、1 日 60,000 m³の給水を目標とするものであった。このため、秋川と多摩川の合流点付近の高月町に敷地面積 43,000 m²を確保し、秋川の伏流水を取水する高月浄水場の建設を行った。

首都圏整備事業の施行により、昭和36年から総工費13億円をかけて6ヵ年計画で着工し、昭和41年に、急速ろ過方式での浄水処理で1日約40,000 m³の能力を持つ浄水場が完成した。処理された浄水は高月給水所を経て、八王子市北部の加住町、石川町、川口町方面へ供給された。

コラム『その頃ってどんな時代？』 その7

昭和36年は第3回世界柔道選手権大会でヘーシングが優勝した。

欧州遠征の日紡貝塚女子バレーボールチームが24戦無敗で帰国し、「東洋の魔女」と呼ばれた。

歌では「スーダラ節」「上を向いて歩こう」「王将」などが流行した。

テレビ番組では「夢であいましょう」「シャボン玉ホリデー」「七人の刑事」などが放送開始された。

昭和38年11月22日アメリカのケネディ大統領が暗殺された。初の日米テレビ衛生中継でこの大統領暗殺のニュースが日本に報道された。

昭和39年10月10日第18回オリンピック東京大会が開催された。八王子市でも自転車競技の会場となり、五輪自転車競技場や自転車競技用選手分村が建設され、10月14日にオリンピック自転車競技ロードレースが開催された。

同年8月1日八王子市と由木村が合併した。



工事中の高月浄水場

7．第6期拡張工事（昭和43年度～50年度） 都水受入れ施設 北野配水場

急激な人口増加が見込まれる中、第6期拡張工事は、昭和43年度より50年度までの予定で給水区域の拡大を図るものであった。

給水面積は71.35k㎡で、市全域の40%を占めることとなり、推定人口50万人に対し計画給水人口34万人、1日最大配水量136,000m³、1人1日最大給水量400リットルで計画された。

しかし、新たな自己水源はなく、東京都からの分水を水源にせざるを得なかった。

昭和46年3月に高月浄水場内に第2送水設備が完成し、同年7月より小作浄水場で処理された浄水を1日39,000m³受水し犬目第2給水所に送り、恩方町、高尾町方面に給水した。

また、北野配水場が昭和49年3月に完成し、1日37,000m³を東京都からの分水で受水し、旧市内給水地区へ直送。さらに市内東南部へも給水した。

八王子は地形が起伏に富んでいるため、配水池を丘の上に作らなくてはならず、この計画では恩方、浅川、梅坪、打越配水池等を新設している。

コラム『その頃ってどんな時代？』 その8

昭和43年12月20日中央自動車道八王子～相模湖間が開通した。

昭和44年7月20日アメリカのアポロ11号が月面着陸し、アームストロングとオルドリン両乗務員が人類として初めて月の土を踏んだ。

昭和45年3月14日日本万国博覧会が大阪千里で開催され、9月30日までで入場者数が6,421万8,770人に達した。

昭和46年にはホットパンツ、パンタロンが流行し、ボーリングが人気を集めた。歌では「よこはま・たそがれ」「また逢う日まで」などが流行し、映画では「ある愛の詩」「沈黙」などが上映され、テレビ番組では「セサミストリート」「仮面ライダー」「スター誕生」などが人気を博した。

昭和47年2月3日冬季オリンピック札幌大会が開催され、笠谷幸生が70m級ジャンプで冬季五輪初の日本優勝を決めた。

八王子市は昭和48年8月10日に苫小牧市と姉妹都市の盟約を締結し、昭和49年4月1日に日光市とも姉妹都市の盟約を締結した。

8．都営水道一元化（昭和50年度）

多摩地区では、昭和30年代以降急速な都市化の進展に伴い、水道事業の区部との格差や市町村間にも格差があった。主なものは、水源の確保、水道料金、水道の普及状況及び給水施設の整備状況であった。このため、各市町村長で構成する「三多摩市町村水道問題協議会」が結成され、東京都に格差是正の要望が出された。

これを受けて、都知事は昭和44年2月に「東京都水道事業調査専門委員」に「区部と多摩地区の水道事業における格差是正措置」について諮問した。専門委員は、昭和45年1月に「東京都は、三多摩地区市町村営水道事業を吸収合併し、区部水道事業とともに一元的に経営することによって、水道事業における格差を解消する方途を講ずべきである。」との助言を行った。

この助言を受け、東京都は昭和 45 年 7 月に多摩水道対策本部を設置し、多摩地区市町村水道事業の都営一元化を図ることとし、昭和 46 年 12 月に「多摩地区水道事業の都営一元化基本計画」を策定した。この内容は、次のとおりである。

- (1) 計画期間は、昭和 47 年から 50 年までの 4 力年間。(後に延長した。)
- (2) 対象地域は、西多摩地区の五日市町、奥多摩町、日の出村及び桧原村の 4 町村をのぞく 28 市町。(後に五日市町と日の出町は対象となる。)
- (3) 水道料金、その他の負担を区部と同一にする。
- (4) 施設整備計画に基づき、一体的な施設として整備していく。
- (5) 市町の保有する水道施設等の財産は、企業債などの借入金とともに都に引き継ぐ。
- (6) 市町の水道職員は、都職員として引き継ぐ。

昭和 47 年 1 月から三多摩市町村水道問題協議会と東京都との協議を開始し、同年 2 月に都営一元化計画は東京都案で決定することに合意した。

しかし、職員の処遇問題で自治労東京都本部との調整の中で、市町職員の引継ぎは行わないこととなった。このため、各市町地域内の業務は、原則として当該市町に委託することとなった。

昭和 48 年 11 月 1 日に第一次として小平市ほか 3 市の統合が行われ、その後、逐次 25 市町が都営水道に統合されていった。

八王子市も昭和 51 年 2 月 1 日に統合され、独立組織の水道局から水道部に改編された。

この結果、25 市町の水道は、水源の確保、給水普及率の向上、水需要の地域的アンバランス解消並びに水道料金その他住民負担の同一化等、初期の目的をほぼ達成した。

なお、武蔵野市、昭島市、羽村市の 3 市は統合せずに、独自で水道事業を行っている。

この一元化に先だち、昭和 49 年 12 月に水道事務所を大和田町から元本郷町浄水場内の仮庁舎に移転した。

コラム『その頃ってどんな時代?』 その 9

昭和 50 年 12 月 10 日八王子市議会は東京都水道事業の事務の受託を可決した。

昭和 50 年の世相は、食品汚染が関心を集めたり、暴走族グループが横行したりした。また、広島カープが初優勝した年であった。

歌では「シクラメンのかおり」「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」などが流行した。本では有吉佐和子の「複合汚染」が出版され、映画では「タワーリング・インフェルノ」「ジョーズ」「青春の門」などが上映された。また、テレビ番組では「欽ちゃんのドンとやってみよう」などが人気を博した。

9. 受託解消と東京都への業務移行 (平成 17 年度～)

多摩地区の水道事業は、昭和 48 年度から逐次 25 市町が都営水道に統合されたが、実際の水道事業は東京都からの事務受託により各市町が実施していた。このため、広域水道としてのメリットを十分発揮されていない状況にあった。

そこで、東京都水道局は平成 15 年 6 月に事務委託の解消を主な内容とする「多摩地区水道経営改善計画」を策定した。この計画は、事務委託を解消し、東京都による直営化を推進する

ことにより、「お客さまサービスの向上」や「給水安定性の一層の向上」更には「効率的な事業運営を確保する」ことを主な柱としている。

事務委託の解消にあたっては、それぞれの市町の個別事情に配慮しながら、平成 15 年度から 10 年間で計画期間とした。

本市は、平成 17 年 3 月に市と都との協議のうえ策定した「水道業務移行計画」に基づいて、平成 17 年 4 月 1 日から高月浄水所運転管理や設備の日常点検などの設備系業務の一部を東京都に移行し、平成 18 年 4 月 1 日に全面移行した。続いて平成 20 年 4 月 1 日に水道料金徴収等の徴収系業務及び給水装置系業務を移行、平成 24 年 4 月 1 日に小規模な配管施設の建設改良工事等の業務を移行させ、全ての業務を東京都に返すことになった。

これに先だち、平成 19 年 8 月 16 日に八王子市と東京都水道局で「東京都水道事業の事務の委託を廃止することに関する基本協定」を締結し、事務委託の廃止に関する意思確認を行った。次に、平成 19 年第 4 回市議会定例会で「東京都水道事業の事務の受託の廃止について」の議案が審議され、平成 19 年 12 月 17 日に可決した。この後、東京都水道局と事務委託の廃止に関する協議書及び実施細則の締結を行い、平成 20 年 3 月には、総務大臣に事務委託の廃止の届出及び告示を行った。

給水人口が 46 万人もある八王子市のような大きな水道事業を引き継ぐことは東京都水道局多摩水道改革推進本部としても初めてのことであったため、河川・道路の占有権をいずれが保有するのか、維持管理業務についても都が引き継ぐものと市に残るものの線引きについてはどうするのか、明確な結論はすぐに出なかった。多摩水道改革推進本部と八王子市水道部との長期にわたる折衝が行われたが、これまでに築かれた相互の信頼関係により最後には合意に達した。

紆余曲折はあったが「水道移行業務計画」に基づいた段階的な受託解消は無事に進み、八王子市の水道事業は平成 24 年 4 月 1 日をもって東京都水道局へ完全に移行し、84 年の歴史に幕をおろす。

参考資料

「八王子市史」 「八王子市議会史」 「創立 30 周年記念誌八管のあゆみ」
「八王子市の水道」 「多摩地区都営水道 20 年のあゆみ」

八王子市の水道に関するおもなできごと

昭和３年度	(前年度２月水道使用条例制定)/９月上水道の給水開始/３月元本郷浄水場、散田配水池竣工
昭和４年度	４月臨時水道部閉鎖、水道課に改める/水道使用料の徴収開始/７月市外給水条例可決(横山村散田、由井村)
昭和６年度	６月給水区域拡張(市境界より500m以内に拡張)許可になる
昭和１５年度	６月給水区域拡張(隣接市日野)許可になり、日野重工業社宅への給水開始
昭和１６年度	10月1日小宮町合併
昭和２０年度	8月2日未明、八王子大空襲、全戸数の約９割焼失、450人以上が死亡
昭和２５年度	9月第一期拡張事業着工、給水区域拡張(昭和25年～26年度)明神町浄水場施設工事/子安保育園開設
昭和２６年度	8月第一期拡張事業完成、明神町浄水場竣工(給水開始)
昭和２７年度	11月第二期拡張事業着工、給水区域拡張(昭和27年～29年度)中野町浄水場施設工事、ひよどり山配水池施設工事・給水区域(旧小宮地域)
昭和２９年度	3月第二期拡張事業完成、中野町浄水場、ひよどり山配水池竣工
昭和３０年度	4月1日横山村、元八王子村、恩方村、川口村、加住村、由井村合併
昭和３１年度	9月第三期拡張事業着工、給水区域拡張(昭和31年～33年度)給・配水管延長工事・給水地区横山、元八王子、川口、加住、由井地区の一部
昭和３２年度	3月水道事業給水条例制定・給配水管延長工事竣工(給水開始)
昭和３４年度	4月1日浅川町合併/公営企業法を適用/水道課を水道部に改める/浅川町水道事業計画を引き継ぐ・第四期拡張事業着工(昭和34年～37年度)浅川浄水場浅川配水池施設工事・元本郷浄水場さく井施設工事
昭和３５年度	12月水道部を水道局に改める/水道局事務所を大和田町に移転
昭和３６年度	4月第五期拡張事業着工(昭和36年～43年度)高月浄水場高月配水池施設工事/日野市水道課の創設により、昭和15年6月に区域拡張していた日野市区域を移管
昭和３９年度	8月1日由木村合併/10月東京オリンピック開催
昭和４１年度	12月水道事業管理者を特別職とする条例を可決
昭和４３年度	4月第六期拡張事業着工、給水区域拡張(昭和43年～50年度)・東京都からの受水に対応する施設工事、高月浄水場北野配水場等
昭和４６年度	7月2日都水受水(高月浄水場)/4月1日秋多町に一部編入
昭和４９年度	6月都水受水(北野配水場)/12月水道局事務所を元本郷浄水場内に移転
昭和５０年度	8月水道一元化のため水道事業条例の改正を可決/12月東京都水道事業の事務の受託を可決・翌年2月水道事業を東京都に一元化・多摩水の施設拡充事業により施設拡充を実施未給水地域の解消を図る
昭和５７年度	6月東京都直轄事業として檜原給水所供用開始(昭和58年6月、日野市、日野増圧ポンプ場等供用開始により利根川系給水開始)
昭和５８年度	10月水道部事務所を本庁舎(市庁舎新築)に移転
平成元年度	1月4日面積改定/9月東京都直轄として北野増圧ポンプ場稼働
平成２年度	3月26日厚生大臣変更認可
平成３年度	10月絹ヶ丘給水所(東京都直轄)稼働
平成８年度	4月北野給水所系施設(子安浄水所、明神浄水所、鎌水給水所、南陽台配水所など10ヶ所)を東京都に移管 4月9日大船配水所、大船給水所稼働
平成９年度	4月暁浄水所系施設(暁浄水所など5ヶ所)を東京都に移管
平成１０年度	4月元本郷浄水所系施設(西寺方給水所、狭間給水所、初沢配水所、西寺方配水所など22ヶ所)を東京都に移管
平成１８年度	4月1日、高月浄水所を東京都に移管
平成２０年度	4月1日、料金徴収業務及び給水装置業務を東京都に移管
平成２４年度	4月1日、配水小管の建設改良工事業務を東京都に移管し、受託水道事業を廃止